

令和3年度
盛岡ペットワールド専門学校
自己点検・評価委員会結果報告書

令和4年3月

令和3年度自己点検・評価結果報告について

ここに学校法人龍澤学館盛岡ペットワールド専門学校の自己点検・評価結果を公表いたします。

令和4年3月

学校法人 龍澤学館
理事長 龍澤 正美

令和3年度 盛岡ペットワールド専門学校 自己点検・自己評価委員会結果報告書

1. 学校の教育目標

「人と動物のより良い関係づくり」「ペット業界において真に活躍できる人材育成」

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 教育内容(実践型授業の強化、専門授業強化における教員の指導力向上)
- (2) 学生支援(学生のキャリアパスにおける支援内容の体系化の実現)
- (3) 社会的活動

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

※適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1

(1) 教育理念・目標

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
		今年
1	学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2	学校における職業教育の特色は何か	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて 方向づけられているか	4
課題	学校理念、目的、人材育成像を定めている。社会的ニーズを踏まえ、動物のプロとしての知識や技術のみならず、社会人としてのマナーや心構えを備えた人材を育成する。 これらは、オープンキャンパスやホームページにて入学希望者および保護者に伝えて いる。在校生には、学生の手引きに記載し、入学ガイダンスなどで説明し、周知をして いる。	
改善策	本校の学校理念、人材育成像は、オープンキャンパスやパンフレット、ホームページ 等で周知を図っているが、在学中に意識できるよう工夫し、本校が目指す人材を育成 するように努める。	

(2) 学校運営

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
		今年
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
課題	教育活動等に関する情報公開は、授業計画表などをホームページを活用して行っており、学校取組みもSNSを利用して広く周知している。 組織運営、規則などにおいての明確化、コンプライアンス体制など定期的に見直し改善する。	
改善策	情報システム化等による業務の効率化について、校内のみならず、MCL専門学校グループ内で、業務の効率化を図る。組織運営、規則、コンプライアンス体制などについても見直しをする。	

(3) 教育活動

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
		今年
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
課題	教員の確保については、学校本部の協力も得ながら行っているが、専門性の高い分野のため、人材確保に課題が残る。安定した高い教育を維持するため、教員の研修を行っているが、さらに教育の質を向上できるように努める。	
改善策	教員確保のための仕組みづくりと卒業生や事業所の交流を強化する。職員の指導力向上のため、研修の時間を確保すると共に、研修内容を検討する。	

(4) 学修成果

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
		今年
1	就職率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3
課題	就職内定率については課題が残る年度となった。在校生には早くからキャリアプランを考える機会を設け、将来の目的と目標を明確にするよう指導している。資格取得については、愛玩動物看護師が国家資格となったため、在校生卒業生共に合格できるよう支援する。学生一人一人と向き合い、満足度を高め、退学抑止にも注力する。	
改善策	就職の支援は、担任と就職課で行い支援する。資格取得については、放課後や長期休みを使い支援する。退学者については、意識調査や個人面談の時期を早め退学抑止に努める。学生の目的と目標に向けたキャリア形成を支援する。	

(5) 学生支援

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
		今年
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	3
9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
課題	学生の進路、就職、学校生活に関する相談については、本校のみならず、MCL 専門学校グループで支援するように努めている。新型コロナウイルス感染症の影響で、外部との繋がりづらい状況になっているが、感染予防をし、感染状況を見ながら社会と繋がり学生を支援する。卒後教育についても実施できるように検討する。	
改善策	卒業生への支援体制を見直しが必要である。卒業生の現状を把握し、必要な支援ができるよう、仕組みづくりが必要となる。	

(6) 教育環境

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
		今年
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	4
課題	オンライン授業を実施するため、ネットワーク環境を整えている。オンラインを活用しながら、より質の高い教育を提供する。施設設備については定期的に見直し整備していく。	
改善策	海外研修は、新型コロナウイルス感染症の終息後からの再開を予定している。愛玩動物看護師の国家資格に向けて、教育環境を整備する必要がある。	

(7) 学生の受入れ募集

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
		今年
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3	学納金は妥当なものとなっているか	4
課題	募集活動については、教育理念や人材育成像、アドミッションポリシーを理解し、共感いただいた上で入学していただけるように努めている。目先のことのみならず、将来の目標や卒業後を見据えた上で、どちらの学校に入学するか検討するように声かけをしている。	
改善策	新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、71名の入学を達成することが出来た。次年度も目標達成できるよう、オープンキャンパスでの満足度を上げるとともに、教員の指導力を向上しながら、学生の目標達成を支援していきたい。	

(8) 財務

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
		今年
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4
課題	—	
改善策	法人本部で適正に管理・実行しており、財務情報についてはすでにホームページで情報公開している。	

(9) 法令等の遵守

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
		今年
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4
課題	法令等適切に遵守し、運営を行っている。個人情報保護については継続して教職員の意識向上を怠りなく徹底していく。	
改善策	第三者評価の実施に向け、継続しての仕組み作りをグループ全体で構築していく。	

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
		今年
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4
課題	学生のボランティア活動については、新型コロナウイルス感染症の感染状況により中止した時期もあったが、状況を見ながら実施する。本校の特色である地域と連携した教育ができるよう社会とのつながりを強化する。	
改善策	地域ニーズを関連団体等の連携により収集し、よりきめ細やかな支援を展開していく。	

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校のコンセプトである「人と動物のより良い関係づくり」が出来る人材を育成するため、教育理念を掲げ、学科ごとに人材育成像を明確にしながらか教育プログラムを整えてきた。令和3年度は、動物飼育科の名称変更に伴い、カリキュラムの変更をし、外部での活動を増やし、新たな非常勤講師の授業も取り入れた。次年度は、動物飼育科としては初めての卒業生を輩出するため、学生たちの希望に沿った進路決定ができるように支援する。

また、愛玩動物看護師の国家資格に伴い、動物看護師科およびペットマスター科についての教育プログラムも見直しをしている。時代の流れを把握しながら、今後も学校コンセプトや教育理念を踏まえ、学生たち自身の目的や目標を明確にしながらか、一人一人と向き合い、人と動物のより良い関係が広がった社会になるよう教育活動に努めたい。

令和3年度

盛岡ペットワールド専門学校

学校関係者評価委員会結果報告

令和4年4月

令和3年度学校関係者評価 報告

学校法人龍澤学館 盛岡ペットワールド専門学校では、本校規定に基づき、学校関係者評価委員会を令和4年8月3日に開催いたしました。以下に、その内容を報告いたします。

今後は、各委員からの意見や指導等を真摯に受け止め、より良い教育、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参ります。

引き続き、一層のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

1. 学校関係者評価委員

氏名	企業・団体名	部署・役職
佐々木 一弥	一般社団法人岩手県獣医師会	会長
袖林 美波	岩手大学農学部附属動物病院	動物看護師
芦萱 夏海	ちだ動物病院	店長
工藤 昌雄	盛岡ペットワールド専門学校	校長
吉田 淳	盛岡ペットワールド専門学校	事務局
三上 祐太	盛岡ペットワールド専門学校	校長代理
下斗米 恵	盛岡ペットワールド専門学校	事務局

2. 委員会次第

- (1) 開会
- (2) 委員長挨拶
- (3) 開催趣旨説明、委員紹介
- (4) 令和3年度学校関係者評価結果について
- (5) 意見交換
- (6) その他

3. 討議内容

本校の教育理念・目標について説明を行った後、「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえて作成した評価項目による自己点検・評価結果について、評価項目ごとに達成状況や取り組み状況、改善対策等について外部委員の皆様と意見交換した。

(1) 教育理念・目標について

本校の教育目標は、「人と動物のより良い関係づくり」「ペット業界において真に活躍できる人材育成」であると報告した。

学校理念等についてはオープンキャンパスやパンフレットなどで周知しているが保護者からの勧めでオープンキャンパスへ参加する高校生が増えていることから、周知が進んでいると感じられると報告した。

(2) 学校運営について

法人本部と連携を図り、MCL グループ校間とも情報共有をしながら学校運営をしていると説明した。

運営組織や意思決定機能は規則等において明確化について、専門学校グループの法人からのサポートはあるが、新しい職員が入職していることもあり、共通認識を深めながら、有効的に機能しているか確認を行いたい。業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備について、体制が整っていないわけではないが、次のステップへ向かうための見直しを見越した評価としたことを報告した。

(3) 教育活動について

本校は愛玩動物看護師の国家資格を受けることができる認定を受けたが、今後も適切に教員を確保出来るように業界や卒業生とのつながりを大切にしていきたい。関連分野における先端的な知能・技能を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みについて、研修については学生の国内研修引率の際に、教員も研修を受けているが、学校を離れた研修、オンライン等の研修についても参加できるような仕組み作りを検討中であると報告した。

(4) 学修成果について

令和4年3月時点の就職率は、86.0%動物業界への就職率としては96.0%であり、学生が多様化し、就職ではなく卒業をめざす学生がいたり、卒業することが難しく補講が必要、初めからアルバイト希望という学生がいたりするため、学生の希望に合わせて指導を行っている

と報告した。
資格取得率の向上について、卒業生、在校生ともに愛玩動物看護師の国家資格取得を目指し

ていると報告した。

退学率の低減について、本校では担任制としている。急な退学にならないように速やかに対応できるような体制を取っていると報告した。

佐々木様より退学率について質問をいただいた。

今年度は現時点で3名退学。R3年度退学率は6%と説明する。

佐々木様より離職率について質問をいただいた。

卒業生の動向調査が出来ていない状況。今後、離職率や採用頂いた事業所の満足度も確認していけたら良いと考えていると説明する。

佐々木様より、巷では、動物看護師の離職率が高いとささやかかれていた時代もあった。動物病院側の福利厚生などが原因の場合もあるが、現在は改善されつつあるのではないかと考えている。獣医師会としても、雇用条件等については働きかけていきたい。愛玩動物看護師の国家資格化に伴い、人件費の高騰などが話題になっていたりもすると説明いただく。

袖林様より自身が学生時代40名クラスで現職5名前後。学生の時に考えていた動物病院のイメージとの違いがあり離職するケースが多いようである。自分もイメージと現実のギャップがあった。給与面、汚れの多い作業内容、動物の安楽死など・・・学生時代に多くの事を知っていたら違うかもしれないとご意見をいただく。

芦萱様より学校での座学は決して苦手なものではなかったが、学んだことを動物病院の業務に落とし込むのが難しいと感じ、学びが欠けていると感じることもあったとご意見をいただく。

佐々木様より地域によって、動物病院の看護師に求められる職務の範囲に違いがあるようだ。人手不足の地域については、業務の範囲も広い。捉え方はそれぞれだが、動物病院の様々な症例に関わることができるのは恵まれているともいえる。動物の生死の問題については様々な現状や意見があるが、長めにインターンシップ実習に行くなどできれば、より多くの現場の実状を知ることができるのではないかとご意見をいただいた。

(5) 学生支援について

卒業生への支援体制について、卒業生よりご意見をいただいた。

袖林様より現在は二次診療で勤務中。予約診療で件数が決まっているが、急患も扱うし、10時間程度の手術にも立ち会う。その前の機械出し麻酔等準備含め長時間の勤務である。薬の計算等学校でさわりとして習ったが、現場ではより獣医学に近く深い内容であった。学校で習う基礎基本も大切だが、プラスアルファの部分の奥が深いと感じるとご意見をいただく。

佐々木様より関東の動物病院では、獣医師の人数も多いため、動物看護師の業務が限定的。地方の動物病院の方が、マルチに活躍できる可能性もある。卒業生を対象にした、情報共有の集まりを開催してみてもどうかとご意見をいただく。

(6) 教育環境について

学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備について、今年度ネットワーク環境について整備を行った。実習室等の整備が課題と報告する。

(7) 学生の受入れ募集について

MCL専門学校グループおよび学校法人本部と連携し取り組んでいると報告する。

(8) 財務について

MCL専門学校グループおよび学校法人本部と連携し取り組んでいると報告する。

(9) 法令遵守について

MCL専門学校グループおよび学校法人本部と連携し取り組んでいると報告する。

(10) 社会貢献・地域貢献について

コロナが落ち着きボランティア参加依頼についても増えている。

イベントについても場所を変更するなど、地域のニーズに応えながら開催する方向で検討中。と報告した。

佐々木様より愛玩動物看護師国家資格化に伴い、進学希望者が増加傾向しているとの事だが、優秀な人材が集まることについて期待している。動物に関わる仕事を指すきっかけは「動物が好き」というものかもしれないが、最終的には「動物を介した人間の心のケア」であることを忘れないでほしいとご意見をいただく。

袖林様より卒業後数年経過しているが、今回の委員会に参加して学校も良い方向に変化していると感じる。国家資格化に伴い、志が高く現場に行ってもつぶれない人材が増えることは歓迎している。知る限りではあるが、業界での待遇面の改善が見込めないケースなど散見し、現場で動物看護師として勤務を継続するが、資格については挑戦しない場合もあるようだ。有資格者の地位向上を図ることも目的の一つならば待遇の改善についても課題であると考えられるとご意見をいただく。

芦萱様より実際の現場では、飼い主様の対応をする場面が多く、対応について学生時代に学びたかったとご意見をいただく。

4. まとめ

愛玩動物看護師の国家資格に伴い、獣医師会様とも連携し、動物のプロの社会的地位の向上を目指していきたい。

自己点検の評価項目について、状況報告及び改善策の説明報告を行い、委員の皆さまから様々なご意見をいただいた。具体的な対策を講じ、計画的に改善できるよう努めていくこととし、今後も人と動物のより良い関係づくりを目指し、社会で活躍できる人材を育成していきたい。